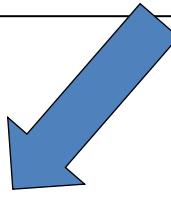
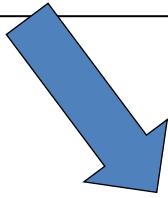


事業所自己評価シート

平成6年度

職員による自己評価	保護者による評価
A 環境面 ほぼ満足 カルチャーズデイでは、トイレ、給湯室、事務所を除き、生徒1名の最低平米数で割ると生徒33.3人分のスペースを確保している。	A 環境面 満足 足れるほどのスペースが欲しい 広ければ広いほど良い カルチャーズデイでは、トイレ、給湯室、事務所を除き、生徒1名の最低平米数で割ると生徒33.3人分のスペースを確保している。
B 児童への支援内容 完全なバリアフリーではないが高低はほとんどない。	B 児童への支援内容 たくさんの工作がある 本人のスペースで活動ができる
C 関係機関との連携 関係の学校、学童と連絡をしている	C 事業所からの情報発信
D 保護者への説明責任・信頼関係 個別にコミュニケーションをとっている。 月1回の面談の回数はもっと増やしていきたい。	D 非常対応
E 非常対応	



事業所内での分析

【共通点】

スペースの広さではなく、今活動しているスペースに合った活動を選んでいく。広すぎたり狭すぎるのは事故の原因になりうる。

【相違点】

年に2回実施する避難訓練が保護者に伝わっていない。

分析・検討してみて…

事業所の強み

子どもが安心できる居場所

保護者支援

保護者とのコミュニケーション

事業所の改善点

もっと楽しめる居場所づくり

面談の頻度をあげる

ICTなどを活用した新しい連絡方法の提案

地域交流などが課題

事業所の改善への取り組み

①

体験をプロデュースする

体験とコミュニティ交流を実現するようなプログラムを提案していく

全ての活動をコミュニケーションにつなげるようとする

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

事業所からの連絡事項は案内など、正確に保護者様に伝わっているか確認が必要

DXを推進し仕事効率と正確さを向上させミスや誤解のない運営をめざす

中高生への対応力を高めるため、年齢や発達段階に応じた**「空間づくり」や「関わり方」**の
リデザインを行う。

スタッフの関わりも年齢ごとのテーマ（自己理解、将来像形成など）に合わせて変化
小学生中心の空間から、幅広い年齢層にフィットする“もうひとつの居場所”へ

事業所名 カルチャーズデイ保土ヶ谷
担当者 宮城敏浩